

ニューバランスはあらわれた

Colors of KCUA 2016 京都市立芸術大学 芸術学研究室による総合選抜展

2016年8月30日(火)-9月19日(月・祝)

11:00-19:00(入場は18:30まで)

9月5日(月)休館 入場無料

西村有未

①《五番目はかまどに閉じこめられましたが、いつまでも息をとめることが出来るので死にませんでした。》

②《四番目は柱に縛りつけられ火をつけられましたが、絶対に燃えない体なので死にませんでした。》

③《二番目は刀を思いきり降り下ろされましたが、鉄のようにかたい首をしているので死にませんでした。》

④《三番目は海に投げ込まれましたが、海の底までどンドン足をのぼすことが出来るので死にませんでした。》

油彩、キャンバス

武藤桃

《はなしてのことは》
映像、音声、和文タイプライター

岡本秀

《みんな良いひとでよかった》
鉛筆、水性マーカー、ペンキ

楠井沙耶

《フィールドスタディー》
布
※会期中に場所が変わります

西森加奈

《犬のサーカス》
ジオラマ、ハリボテ、ステージ、看板、模型、ドローイング、映像

本展は、京都市立芸術大学芸術学研究室の学生が中心となって2011年から企画・運営している京都市立芸術大学卒業生・在学生選抜の展覧会「Colors of KCUA」シリーズの第5回です。研究活動と並行して制作の現場にも関わる芸術学研究室ならではの視点から作家を選定し、本学の制作活動や動向を広く学外に発信することを目的としています。

タイトルに掲げられた「ニューバランス」とは、出展作家5人の制作に共通して見られる特徴を表す言葉です。

こういった作品は平成生まれの特質としてしばしば語られる「突き抜けない」「まわりくどい」といった特質と類似すると受け取られるかもしれませんが、この展覧会ではその余白を持った繊細で軽やかなバランスを美術に変化をもたらす「ニュー」なものとして発信することを試んでいます。

※備考

この文章における「表現・外見的特徴の点におけるニューバランス」の内容は、軽さ、柔らかさ、中立性、ユーモアなどのある表現や、他人との衝突、現実の不可能性、恐怖、違和感などに対処(直接の批判ではない)する試みを想定しています。

西村 有未 NISHIMURA Yumi

西村有未は寓意表現を追求しながら油彩作品の制作に取り組んでおり、本展では幼少時に読んでいた絵本に着想を得て「死」という恐ろしいものを転換させながら対面するための絵画を展示します。「死なない人間」という不条理なキャラクターを濃厚な色彩と質感、隣り合う絵の具同士の間隔を丁寧に考えた画面構成で描き出す作品は、重たい「死」を陽気で希望ある夢物語として鮮やかに仕立てています。

〈略歴〉

1989 東京都生まれ
2014 東京造形大学造形学部美術学科 絵画専攻領域 卒業
2016 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程
絵画専攻油画 修了
京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程
油画専攻 在籍中

岡本 秀 OKAMOTO Shu

岡本秀は心の揺れ動きや感情を捉えるようなマンガを用いたインスタレーションの作品発表を続けてきました。今回の出展作品では「展覧会ごっこ」をする子ども達の物語を同じくマンガの形式で描きます。デリケートで複雑な違和感や衝突をギャラリーの空間に取り込む作家の行為は、身近な問いを個人的な課題に留めるのではなく鑑賞者にも広く投げかけていると言えるでしょう。

〈略歴〉

1995 奈良県生まれ
2016 京都市立芸術大学美術学部美術科 日本画専攻 在籍中

楠井 沙耶 KUSUI Saya

楠井沙耶は木や布など素材性を追求しながら身体感覚に基づいた立体作品を主に制作してきました。今回は自らの領域を探ることをコンセプトに展示空間内に布を折りたたみ配置する作品を作ります。彼女の探索の成果となる布の塊は、他の作家の制作物の中に落ち着きつつも鑑賞者が触れればすぐに崩れてしまう柔らかな流動性を持ち、領域の見えなさによる戸惑いを見る者に与えます。また、会期中のワークショップでは実際に他者に作品を崩して再構築させる試みも行います。

〈略歴〉

1993 大阪府生まれ
2016 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻 卒業
京都市立芸術大学美術研究科修士課程彫刻専攻 在籍中

武藤 桃 MUTO Momo

武藤桃は「主観と客観」について心理学や個人的体験から着想を得た作品を制作してきました。本展では主に映像を用いて他人とコミュニケーションを取る際に演じてしまう「役割」の文脈や意味をひっくり返す試みを行います。組み替えられた会話、タイプライターと活字、会期中の「監視員による会話のパフォーマンス」などに見られる意味をずらされた言葉たちは、鑑賞者を冗談とも本気ともつかぬような不思議な状況に遭遇させるでしょう。

〈略歴〉

1994 東京都生まれ
2016 京都市立芸術大学美術学部美術科構想設計専攻 在籍中

西森 加奈 NISHIMORI Kana

西森加奈は、いつかの幸福な時間を反復させるようなインスタレーションを制作しており、今回は「一瞬で始まり一瞬で終わってしまう犬のサーカス」という賑やかで壮かつ刹那的なショーの計画を作品化します。一見チープなジオラマや構想図などを用いて、真剣にプランを実現に近づけようとする作品は、鑑賞者の幸福な想像力をかきたてる「あそび」を持っているとも見えます。

〈略歴〉

1992 兵庫県生まれ
2016 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻 卒業
京都市立芸術大学美術研究科修士課程
絵画専攻油画 在籍中

企画運営：京都市立芸術大学芸術学研究室美術学部総合芸術学科
4年生 | 砥綿 菜、川久保 美桜
3年生 | 佐々木 愛、豊田 日菜
2年生 | 小林 奏子、中野 ふくね、渡邊 瞳
大学院美術研究科芸術学専攻
2年生 | 河原 功也
1年生 | 岡田 真輝

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催：京都市立芸術大学、京都市立芸術大学芸術学研究室